

平成22年度

事業報告書

A 事業活動

第1 青少年の非行防止及び健全育成に関する事業

1 少年問題シンポジウムの開催等 【ホームページ及びみちびき 121 号に掲載】

少年警察ボランティア団体としての立場から、少年の非行防止及び健全育成に関わる今日的で重要な問題をテーマとして取り上げ、専門家や有識者による基調講演、その問題に関係の深いパネリストによる意見発表とディスカッション、会場の参加者との意見交換等によって、少年問題に対する認識を深める活動である。

講師、パネリストには、当該テーマの専門家等で、当活動の趣旨に賛同された方々を依頼し、会場には、少年警察ボランティアのほか、関係者、一般の者も参加して実施した。

(1) シンポジウムの開催

平成22年11月17日（水）東京・虎ノ門のニッショーホールにおいて、第17回少年問題シンポジウム『次代を担う少年の育成のために～子どもに規範意識を身につけさせよう～』を、(財)社会安全研究財団と共同で開催した。

◇ 基調講演／『身につけさせよう規範意識』

石堂 常世 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

◇ パネルディスカッション／「次代を担う少年の育成のために～子どもに規範意識を身につけさせよう」

・コーディネーター

村松 励 氏（専修大学人間科学部心理学科教授）

・パネリスト 岡崎 勲 氏（神奈川県・少年補導員）

藤井 貢 氏（警視庁新宿少年センター主査）

石井 卓之 氏（東京都新宿区立戸塚第一小学校校長・同第一幼稚園園長）

小林 寿一 氏（科学警察研究所犯罪行動科学部少年研究室長）

・コメンテーター 石堂 常世 氏

◇ 参加者 少年警察ボランティア 389名

少年補導職員等警察職員 59名

教職員等招待者 48名 主催者側 38名 合計 534名

(2) 少年研究叢書の刊行

シンポジウムの内容を取りまとめ、平成23年3月、『全少協少年研究叢書 22』

として、2,500部を作成し、都道府県警察、都道府県少協、都道府県防連及び関係機関・団体、全国の図書館に配布した。

2 地域ふれあい事業の実施 【ホームページ及びみちびき120・121・122号に掲載】

少年の非行防止や健全育成に資するため、少年たちに、社会参加、社会奉仕等を通して、地域社会との連帯感を培い、地域の人たちとのふれあいによりコミュニケーション能力を身につけさせることを目的として、次のような活動を行うものである。

〔地場産業の見学会や体験、伝統文化・行事等の見学や参加、公共施設等の清掃、福祉施設等の慰問やボランティア体験、自然環境を守るための植林や地域美化のための花卉栽培その他〕

実施に当たっては、少年警察ボランティアが活動の中心となり、警察職員、自治体職員、関係機関団体職員、地域住民の支援協力を得て、地域の少年たちが参加し、主体的に行動できるように配慮して行っている。

本年度は、(財)社会安全研究財団の助成を受け、全国少年警察ボランティア協会(以下「全少協」と略称する。)と都道府県少年警察ボランティア協会等(以下「県少協」と略称する。)との共催で、次の25道府県で実施をした。

なお、実施内容の詳細は、別紙1のとおりである。

(1) 北海道

日時・場所 平成22年4月1日～23年1月末日 北海道警察各方面管内

事業名 「少年の居場所づくり(通称“JUMPプラン”)事業

実施内容 ①少年スポーツ教室(プロチーム等指導者によるサッカーの基礎的練習等)、②ふれあいサポート(調理実習教室)、③ボランティア体験(防犯人形劇上演、おもちゃ製作等)、④環境美化(公共施設等落書き消しや清掃等)、⑤その他地域対応の活動(農業体験、街頭活動、スポーツ大会等)

参加者 総計 5,763名(うち小中高校生、有無職少年3,692名、少年警察ボランティア397名、大学生ボランティア34名、その他(警察職員・教職員・保護者・地域住民等)1,670名)

(2) 青森県

日時・場所 平成22年7月10日 五所川原地区

事業名 「少年による郷土色あふれる物作り体験・施設慰問」

実施内容 少年警察ボランティアが、児童福祉施設入所中の少年たちを迎えて、立佞武多を見学。解体された立佞武多の紙を再利用してうちわ作りを体験、特別養護老人ホームを訪問して、うちわを手渡し、老人を慰めた。

参加者 総計 45名(うち中学生27名、少年警察ボランティア12名、警察

職員 2 名、教職員 4 名)

(3) 岩手県

日時・場所 平成 22 年 10 月 2 日 紫波・矢巾地区

事業名 「ふれあいマレットゴルフ大会」

実施内容 小学生と少年警察ボランティアが、マレットゴルフ協会所属老人クラブ員の指導を得てマレットゴルフを行い、参加者で作った昼食で交流した。

参加者 総計 82 名 (うち小学生等 40 名、少年警察ボランティア 17 名、警察職員等 12 名、マレットゴルフ会員 13 名)

(4) 栃木県

日時・場所 平成 23 年 2 月 27 日 足利地区

事業名 「毛野地区地域交流会」

実施内容 多数の児童生徒、その保護者、ボランティア等が参加して開催される地域交流会で、関係ボランティア団体の指導を得て、アートモザイク、竹トンボ、点字絵本等の製作に取り組んだり、民話の語り部、視覚障害者のガイド、鑑識指紋採取などを体験した。

参加者 総計 168 名 (うち小学生 62 名、中学生 12 名、未就学児 8 名、少年警察ボランティア 53 名、警察職員 5 名、教職員・保護者 28 名)

(5) 埼玉県

日時・場所 平成 23 年 1 月 15 日 春日部地区

事業名 「羽子板と羽根つきの歴史の説明及び押絵羽子板製作」

実施内容 職人による押絵羽子板製作実演と羽子板展示を見学した後、参加者全員が羽子板製作を体験。また突き羽根(1 人羽根つき)と追羽根 (2 人対戦)の実演を見学した後、参加者全員が体験し、段級の認定を受けた。

参加者 総計 114 名 (うち中学生等 25 名、少年警察ボランティア 11 名、大学生ボランティア 6 名、警察職員 21 名、保護者等 36 名、実行委員 15 名)

(6) 新潟県

日時・場所 平成 23 年 8 月 6 日 三条地区

事業名 「伝統料理と地場産業体験及び社会参加活動」

実施内容 ① 少年と大人がグループとなって、伝統またぎ料理作りを行った。
② 三条鍛冶の歴史を学んだ後、鍛冶職人の指導で、和釘作りを体験した。
③ 「6・9(ロック)の日」に JR 東三条駅周辺で、自転車等の防犯診断及び施錠率アップの広報啓発を行った。

参加者 総計 45 名(うち小学生 22 名、少年警察ボランティア 13 名、警察職員 9 名、教職員 1 名)

(7) 長野県

日時・場所 平成22年4月20日～23年1月9日 県内12地区

事業名 「信州の伝統文化伝承と美しい環境を守る地域ふれあい事業活動」

実施内容 ①キャンドル・木工工芸の生産体験 ②地域柔道連盟の柔道大会に協力し、柔道教室の少年たちが振り込め詐欺被害防止等の街頭活動等に参加。③昔遊び等の伝承活動やニュースポーツ普及活動に少年たちが参加。④駅前ロータリーのプランターの取替えと花植え ⑤青少年健全育成環境づくりの講演会開催 ⑥障害者とのスポーツ交流会 ⑦公園の花壇に花苗400本を植樹。⑧地区のイベントにブースを出店し、来場した少年や保護者に竹細工、お手玉等の作り方や遊び方を指導。⑨国宝松本城で磨き方の指導を受け、床磨きを実施。⑩JR駅前植え込みに1年間に3回花の苗植え、草取り等を実施。⑪駅周辺で年間2回花植え、手入れ、植替えを実施。

参加者 総計延2,008名（うち小学生802名、中学生369名、高校生110名、少年警察ボランティア249名、警察職員46名、教職員・PTA等81名、その他351名）

(8) 静岡県

日時・場所 平成22年8月22日 磐田地区

事業名 「少年リーダー育成の集い」

実施内容 少年リーダー育成の集いの誓いの言葉唱和、フュージング（ガラス工芸）体験、グループディスカッション、チーム対抗言葉集めゲームの実施

参加者 総計110名（うち小学生57名、少年警察ボランティア35名、警察職員9名、教職員9名）

(9) 富山県

日時・場所 平成22年8月1日 南砺地区

事業名 「なんとのお昔、なんとのお今」

実施内容 指導者の指導を受けそば打ちを体験、和紙紙漉きとはがき製作、メンタルコミットロボ研究開発者による講演。

参加者 総計62名（うち小学生26名、少年警察ボランティア等27名、警察職員9名）

(10) 石川県

日時・場所 平成22年11月21日 七尾地区

事業名 「地域における伝統文化にふれる職業体験」

実施内容 商店振興会や教育委員会等の協力を得て、物をつくる人たちの苦労や喜びを感じられるような職業体験（箔打ち、醤油絞り、お茶挽き、昆布削り等）をし、商店主たちと交流を行った。

参加者 総計63名（うち小学生31名、少年警察ボランティア15名、警察職員7名、地域住民10名）

(11) 岐阜県

日時・場所 平成22年6月19日～11月16日 大垣地区

事業名 「少年の農業ふれあい塾「大安ダッシュ村」

実施内容 サツマイモ、スイカ、トウモロコシの苗植えから収穫までの作業を体験し、収穫物を持参し老人福祉施設を訪問した。またこれらを撮影した写真を使い広報啓発用DVDを作成し、各種会合で活用した。

参加者 総数202名（うち中高生・有無職少年35名、少年警察ボランティア79名、警察職員60名、教職員28名）

(12) 愛知県

日時・場所 平成22年5月26日 知立市立知立南中学校地区（生徒の非行防止モデル地区）

事業名 「中学生による伝統工芸「桜井凧作り・凧上げ体験」

実施内容 凧保存会の指導者の指導を受け伝統工芸品桜井凧作りを行い、凧の表面に将来の目標や信念を書き入れ、凧あげを行った。これら凧を校内や学校文化祭で展示した。

参加者 総計257名（うち中学生・同校関係者230名、少年警察ボランティア5名、警察職員8名、教職員2名、その他14名）

(13) 三重県

日時 平成22年7月25日～11月6日 3地区（羽鳥・志摩、紀宝、鈴鹿）

事業名 「第6回DON舞フェスタ～青少年健全育成よさこいソーラン&太鼓コンテスト」「青少年育成釣り大会」「千代崎海水場ボランティア大掃除」

実施内容 ①よさこいソーランコンテストに参加 ②小学生、中学生、成人の部に分かれて釣りを競い上位入賞者を表彰 ③少年、少年警察ボランティア等と海岸1.3kmに散乱している空き缶、ペットボトル、木片等を2時間にわたって拾い集め清掃した。

参加者 総計1,289名（うち小中学生959名、少年警察ボランティア88名、警察職員76名、教委・教職員5名、ボランティア152名、保護者等9名）

(14) 滋賀県

日時・場所 平成22年8月9日～23年1月29日 県内6中学校地区

事業名 「中学校単位・中学校共通・総括の各種事業」

実施内容 〈単位事業〉①地方裁判所の法廷見学、法廷傍聴 ②中学校を中心に半径3kmにわたる地域のゴミ拾い、草刈り等の清掃作業を実施。③学校周辺のカーブミラー約20本の清掃、自転車盗防止啓発看板を製作して駅前等の駐車場に設置。④警察犬訓練見学と鑑識活動体験 ⑤最寄り駅から中学校までの通学路と同駅周辺のゴミ拾いと草刈り活動を実施及び郷土料

理「びわますご飯」等を調理体験。⑥学校文化祭のブースを利用し、薬物乱用防止啓発と飛出し坊や12体の製作を実施。

〈共通事業〉相談のしおり「ひとりで悩まずまず相談を」を生徒・PTAが協力し作成。

〈総括事業〉「中学生意見交流会—大津北6中学校サミット」として、管内6中学校代表者が地域ふれあい事業活動報告を行い、意見交換を行った。

参加者 総計1,347名（うち中学生975名、少年警察ボランティア166名、警察職員30名、教職員等106名、PTA・一般住民等70名）

(15) 大阪府

日時・場所 平成22年7月17日 堺市西区津久野町地区

事業名 「アンダーパス防音壁及び周辺道路縁石の落書き消しと落書き禁止掲示板設置」

実施内容 地区少年補導員が中学校に呼び掛け、3中学校生徒等が参加し、落書きを消し、「落書きは犯罪です」の立看板を設置、再犯防止を呼び掛けた。

参加者 総計127名（うち中学生65名、少年警察ボランティア16名、警察職員7名、教委・教職員等17名、ボランティア15名、市職員等7名）

(16) 兵庫県

日時・場所 平成22年10月31日 垂水地区

事業名 「少年による魚介類の種苗生産・中間育成状況見学と海釣り体験学習」

実施内容 職員の説明を聴き、ビデオ「ヒラメの誕生から放流まで」を視聴し、ヒラメ等魚類の種苗生産と中間育成の状況を見学した後、隣接の海釣り公園で参加者全員で海釣りを体験した。

参加者 総計45名（うち中学生24名、少年警察ボランティア6名、警察職員10名、教職員5名）

(17) 島根県

日時・場所 平成22年9月1日～23年2月28日 美郷町地区、益田市地区、隠岐の島町有木権現原地区

事業名 ①「少年による郷土芸能石見神楽の承継活動」②「少年による伝統文化継承事業」③「農業体験を通じての少年と地域住民のふれあい活動」

実施内容 ①毎金曜日を練習日とし石見神楽や囃子太鼓の練習を行い、特別養護老人ホームを慰問して披露したり、神社祭礼や敬老会などの地域行事においても出演。②ウラジロ、ユズリハ等を用いてのしめ縄作り③少年たちが田植えした水田で少年たちが稲刈りを行い、収穫したもち米を用いて餅つきを行った。

参加者 総計238名（うち小中学生・保育園児112名、少年警察ボランティア71名、警察職員等20名、教職員等13名、ボランティア22名）

(18) 岡山県

日時・場所 平成22年10月30日、31日 新見市正田地区

事業名 「中世たたら製鉄の再現を通じての親子のふれあい」

実施状況 おかやま国民文化祭（たたら製鉄フェスティバル）において、たたら製鉄の再現を通じて、地域の歴史を学び、作業を体験した。

参加者 総計47名（うち小学生15名、少年警察ボランティア15名、警察職員4名、ボランティア5名、保護者8名）

(19) 山口県

日時・場所 平成22年8月16日～23年1月15日 岩国地区

事業名 「森林の間伐と間伐材の利用、里山でのしめ縄作り、餅つき等を通じての自然体験及び伝統文化等の継承活動」

実施内容 竹林保全、作業手順等の説明を受け、のこぎりを使って間伐作業を行い、間伐材で竹箸や楽器作りを行い、製作したパンフルートで演奏した。正月用しめ縄作りや竹炭でのペンダント作りを行い、餅つきを行った。

参加者 総計162名（うち小学生31名、中学生33名、高校生4名、少年警察ボランティア25名、警察職員5名、ボランティア45名、その他19名）

(20) 徳島県

日時・場所 平成22年7月24日 22年9月9日～10月15日 那賀警察署少年補導協助手活動地区

事業名 「夏休み 親子わくわく体験」、「写真展」

実施内容 児童・幼児と保護者で参加する那賀川でのカヌー体験、河川敷での清掃ボランティア体験、焼きそば作りを体験した。参加者から募集した写真による写真展を行った。

参加者 総計81名（うち小学生・幼児28名、少年警察ボランティア5名、警察職員8名、教職員6名、ボランティア10名、保護者24名）

(21) 高知県

日時・場所 平成22年10月5日～12月9日 高知市潮江地区

事業名 「中・高校生による自転車盗難防止被害防止モデル地区活動」

実施内容 中高年生と少年警察ボランティアが自転車の鍵かけ点検とワイヤーロックの配付、自転車通学生に対する自転車鍵かけキャンペーン、自転車盗難被害防止ポスターの作成と配布を行った。

参加者 総計430名（うち中高年生196名、少年警察ボランティア114名、警察職員52名、教職員68名）

(22) 福岡県

日時・場所 平成23年2月19日 大牟田地区

事業名 「少年健全育成健やかカルタ大会」

実施内容 青少年健全育成を目的とした標語を集めた「健やかカルタ」を使用し、
決まり事やルールを覚えることを目的とした「健やかカルタ大会」を実施。

参加者 総数210名（うち小学生170名、少年警察ボランティア33名、警察職員7名）

(23) 佐賀県

日時・場所 平成22年10月3日 嬉野地区

事業名 「地場産業体験を通しての地域との交流」

実施内容 茶業研修施設で、指導を受けて、手もみ茶、釜炒り茶の体験をし、茶業ソムリエから、おいしいお茶の入れ方の指導を受けた。窯業会館で指導を受けて、自分用のマグカップに絵付けをした。自分で考えた防犯標語等を書き入れたプランターに花植えを行って、市内官公署、小中学校に飾り付けた。

参加者 総数101名（うち小中学生21名、少年警察ボランティア55名、大学生ボランティア9名、警察職員15名、その他1名）

(24) 大分県

日時・場所 ①平成22年4月1日～23年3月18日 大分市立大東中学校区

②平成22年5月17日～23年3月9日 日田市立東部中学校区

事業名 ①「大東中学校区子育てネットワーク活動」 ②「強い東中、優しい東中活動」

実施内容 積極的な非行・被害防止活動を行っている中学校に、地区少年警察ボランティア協会等が協働して、①学校、生徒あげてのあいさつ運動、ゴミ拾い等の社会奉仕、環境美化活動を計画し年間を通して実施した。また、同協会が後援し、生徒主導の地域ふれあいコンサートを開催した。②あいさつ活動、自転車ロックの日の指定、自転車ロック錠寄贈等の社会奉仕、環境美化活動を計画し年間を通して実施した。また掃除用具を寄贈し神社、公園等の清掃奉仕活動を計画し実施した。

参加者 総計2,388名（うち中学生1,766名、高校生20名、少年警察ボランティア・教職員等204名、保護者43名、地域住民等355名）

(25) 沖縄県

日時・場所 平成23年1月29日 県内14地区

事業名 ①「少年との交流スポーツ大会」 ②「少年による生産・販売体験、伝統文化・郷土芸能の継承活動」

実施内容 ①少年・少年警察ボランティア・警察職員等で編成した4チーム間で綱取り合戦を行った。②少年・少年警察ボランティア・警察官等が協力して、昼食作り、黒糖作り、菓子作りなどを行い販売した。農業体験によ

る立ち直り支援等の活動状況の写真パネル展示を行った。また中学生等が練習してきた伝統芸能の発表会を行い、舞踊、獅子舞、三線演奏、旗の舞、エイサー等を発表した。

参加者 総計505名（うち中学生260名、少年警察ボランティア110名、警察職員105名、教職員・保護者等30名）

3 健全育成資料の作成

【ホームページに掲載】

少年警察ボランティアや少年補導職員等警察職員が、小中学生や保護者等を対象に行う「非行防止教室」等で、少年の非行や被害の防止等について講話等を行う場合に、参加者に配布する教材として活用している『健全育成ハンドブック 安全と遊びのルール（小学生用）』及び『健全育成ハンドブック あなたの明日のために～もう一度考えよう～（中学生用）』を、各3万部 計6万部を作成した。

この作成には全日本社会貢献団体機構の助成を受けており、3万部を各都道府県警察少年課及び県少協に無償配布したほか、残部を有償頒布した。

4 第19回全国小学生作文コンクールの実施

【ホームページ及びみちびき121号に掲載】

コンクール参加の小学生本人だけでなく、関係する小学校や保護者などにもひろく、犯罪、事故、安全、防犯等について認識を深めてもらうことを目的として実施。

全少協、(財)社会安全研究財団及び読売新聞社の三者の共催で、内閣府、警察庁及び文部科学省の後援、(社)日本青年会議所、(社)日本PTA全国協議会、(財)全国防犯協会連合会の協力、セントラル警備保障株式会社の協賛により、毎年実施している『わたしたちのまちのおまわりさん』作文コンクールは、平成22年6月16日に読売新聞全国版に社告、9月10日に作文募集締め切りを行った。

応募総数は、低学年の部3,945点、高学年の部4,574点、合計8,519点に及んだ。

特別審査員高田万由子氏ほか5名の審査員による審査の結果、下記の通り入選者が決定し、平成22年12月11日(土)読売新聞全国版に発表、同日、東京・グランドアーク半蔵門で優秀賞以上の受賞者42名の表彰を行った。

受賞者は、以下のとおりである。

◇ 内閣総理大臣賞

低学年の部 藤澤 円香（島根県・江津市立川波小3年）

高学年の部 小村 清香（香川県・三木町立氷上小4年）

◇ 国務大臣・国家公安委員会委員長賞

低学年の部 田村 堇（山形県・鶴岡市立朝陽第二小3年）

- 高学年の部 佐和田有哉 (沖縄県・宮古島市立伊良部小 5 年)
- ◇ 警察庁長官賞
- 低学年の部 鈴鹿 彩貴 (奈良県・智辯学園奈良カレッジ小 3 年)
- 高学年の部 藤居 怜那 (京都府・京都教育大学附属桃山小 4 年)
- ◇ 読売新聞社賞
- 低学年の部 高井美叶子 (石川県・かほく市立宇ノ気小 3 年)
- 高学年の部 坂内 秋斗 (愛知県・名古屋市立名東小 4 年)
- ◇ 社会安全研究財団賞
- 低学年の部 國方 翔 (香川県・小豆島町立苗羽小 2 年)
- 高学年の部 岡村 智聖 (山口県・山口市立湯田小 6 年)
- ◇ 審査員特別賞
- 低学年の部 萩原 基喜 (埼玉県・さいたま市立沼影小 1 年)
- 高学年の部 西村 裕美 (山口県・山口大学教育学部附属山口小 4 年)
- ◇ 優秀賞
- 低学年の部 吉村 彩加 (兵庫県・たつの市立室津小 1 年)
- 高瀬 舞 (栃木県・矢板市立片岡小 1 年)
- 喜納 真愛 (埼玉県・さいたま市立三橋小 2 年)
- 津老 利高 (奈良県・智辯学園奈良カレッジ小 3 年)
- 竹淵 百香 (群馬県・高崎市立八幡小 1 年)
- 三井 仁 (大阪府・城星学園小 3 年)
- 宮本 啓希 (和歌山県・和歌山市立砂山小 3 年)
- 泉 輝旭 (和歌山県・白浜町立西富田小 1 年)
- 山下 瑞貴 (奈良県・智辯学園奈良カレッジ小 3 年)
- 佐復 未空 (群馬県・高崎市立中川小 3 年)
- 山田 英揮 (兵庫県・西宮市立甲陽園小 2 年)
- 平木凜々子 (和歌山県・湯浅町立湯浅小 2 年)
- 松永丞太郎 (兵庫県・たつの市立小宅小 3 年)
- 杉本 佳穂 (福岡県・福岡市立那珂小 2 年)
- 高橋 朋生 (埼玉県・川越市立月越小 2 年)
- 高学年の部 有富 大智 (岡山県・岡山市立宇野小 4 年)
- 池信沙弥香 (埼玉県・さいたま市立常盤小 5 年)
- 江森 竣平 (群馬県・館林市立第二小 5 年)
- 浅川 美佳 (福島県・会津若松市立日新小 6 年)
- 齊藤 梨乃 (埼玉県・ときがわ町立玉川小 4 年)
- 太田 誠人 (群馬県・館林市立第一小 6 年)
- 田中 恭平 (埼玉県・さいたま市立大宮北小 5 年)

桑山 大輝（埼玉県・越谷市立蒲生南小 6 年）
 中林 勇人（群馬県・伊勢崎市立茂呂小 4 年）
 山下里彩子（埼玉県・所沢市立並木小 4 年）
 山戸 武（福岡県・福岡市立西花畑小 5 年）
 重石 幸樹（大阪府・泉大津市立楠小 6 年）
 上坂 仁基（奈良県・香芝市立関屋小 5 年）
 堀田 航貴（兵庫県・豊岡市立中筋小 5 年）
 川崎 陽生（大阪府・箕面市立萱野小 6 年）

なお、本コンクールの受賞者 4 2 名の作文を収録した図書『わたしたちのまちのおまわりさん⑱』を、平成 2 3 年 2 月に発行し、(財) 社会安全研究財団から受賞者並びに学校に贈呈されたほか、各都道府県警察及び関係機関等に無償配布された。

5 インターネット利用による少年サポート活動の実施

【ホームページ及びみちびき 122 号に掲載】

(1) 少年サポート活動の実施

インターネット上に氾濫する少年非行を助長し健全な育成を阻害する有害情報から、少年たちを保護することを目的として、全少協が開設運用するホームページを利用し、サイバー・ボランティアがパソコンからホットラインで、サイト開設者に対する自粛要請、有害情報に関わっている少年たちへの声かけ・補導、相談等の活動を実施した。

平成 2 2 年 4 月 1 日～同 2 3 年 3 月 3 1 日までの活動結果

内容	事業者宛の告知	1 3 件
	児童宛メール送付	1 4, 8 7 3 件
	少年相談	3 件

であった。

(2) 実務研修の実施

「ホットライン従事者実技研修会」を、平成 2 3 年 2 月 1 8 日（金）東京都中央区：TKP 東京駅日本橋ビジネスセンターで実施した。この研修会は「インターネット利用による少年サポート活動」（ホットライン活動）に従事するサイバーボランティアに指定された少年警察ボランティアを対象に、具体的な活動要領などについて実地研修を行い、本活動に対する認識を深めてもらうと同時に、自信をもって活動にあたってもらうように開かれたもので、関東管区内のホットライン活動指定員 2 2 名が参加した。

活動要領実技では、実技アドバイザーの石原 裕氏の他、松浦眞紀子氏、栗田利広氏（以上神奈川県）、今田誠人氏（静岡県）の 3 名の少年警察ボランティアが実技指導にあたった。参加者一人ひとりに用意されたパソコンを前に、各自の

ID番号、アドレス等を利用して、ネットパトロールによるホットライン活動の実地研修を行った。

6 少年の非行防止活動に関する広報活動の実施

【ホームページ及びみちびき 120 号に掲載】

少年の非行防止と健全育成に関する情報を提供するため、ホームページの内容を逐次更新して、情報提供の充実に努めた。

内容は、全少協の事業概要と組織、あゆみ、主催事業、県少協との共催事業（地域ふれあい事業、地域カンファレンス）及び発行する出版物（健全育成資料等）、全国の主な少年相談電話「ヤングテレホンコーナー」、少年非行等の概要、その他となっている。

なお、全少協の定款、役員、平成21年度事業報告書・同収支計算書及び財務諸表及び平成22年度事業計画書・同収支予算書も紹介している。また、「国と特に密接な関係がある」特例民法法人への該当性について【該当しない】旨の公表をしている。

◇ アドレスは、【<http://zenshokyo.ecs.or.jp/>】

7 ボランティアの裾野拡大施策の推進

(1) 少年警察学生ボランティア研修会の開催

少年警察ボランティア活動の将来等も考慮して、年齢的にも少年たちに近い大学生等を少年警察学生ボランティアとして委嘱する都道府県が増加し、委嘱された者も1,200名を超えるにいたっているが、これらの者の理解の深化と意識の高揚を図るため、東日本地区と西日本地区で交互に隔年で、合同研修を行っている。

これらの者に対する合同研修として、「全国少年警察学生ボランティア研修会」を、本年度は、(財)社会安全研究財団の助成を受け、近畿、中国、四国及び九州の西日本地区の大学生等ボランティアの参加を得て、平成22年9月10日(金)福岡・博多サンヒルズホテルにおいて開催した。

今回の研修会には、西日本地区23府県(愛知県が特別参加)の大学院を含む48大学の学生及び教職員109名のほか、警察関係職員及び県少協会長等で合計147名が参加した。

その内容は以下のとおりである。

☆ 研修次第(敬称略)

- ① 開会あいさつ 山田 晋作 (社)全国少年警察ボランティア協会理事長
- ② 来賓あいさつ 早川 治 警察庁生活安全局少年課長
- ③ 講演 「子どもの話に耳を傾けよう」

金田 律子 福岡県警察本部少年課少年健全育成室少年
育成指導官

④ パネルディスカッション

「大学生として少年警察ボランティアに参加する意義

～大学生として、今、何ができるか～」

コーディネーター	梶谷 健二	(関西大学大学院心理学研究科客員教授)
パネリスト	堀 一将	龍谷大学 (滋賀県)
	福井 早織	和歌山大学 (和歌山県)
	向井 彩	安田女子大学 (広島県)
	天野 康成	九州産業大学 (福岡県)
	村岡 光	活水女子大学 (長崎県)
	金城 菜美	沖縄国際大学 (沖縄県)

ディスカッション

コーディネーターまとめ

⑤ 閉会あいさつ 持地 俊勝 (社) 福岡県少年補導員連絡協議会会長

(2) 学生ボランティアの委嘱支援

全少協では、大学生等を少年警察ボランティアに委嘱している都道府県少協が、学生ボランティアを安心して補導活動等に従事させることができるよう、「少年警察ボランティア団体総合補償保険」の保険料を負担し支援した。

平成22年度の支援は、16道県819名に対して行った。

第2 研修事業

1 少年警察ボランティア等の地域カンファレンスの開催

【ホームページ及びみちびき120・121・122号に掲載】

少年の非行防止や健全育成のための活動は、少年警察ボランティアと警察の少年補導職員等が連携して行うことにより効果的な展開が期待できるので、活動について両者に共通の理解と認識を持ってもらい、それらを効果的に行うためには、少年補導職員、少年警察ボランティア相互の研修が不可欠である。

実施に当たっては、少年に関わる問題、少年の非行防止や健全育成のための活動等をテーマに、講演、パネルディスカッション、事例研究、実技訓練等を組み合わせ、参加者全員が参画できるよう配慮して行っている。

本年度は、(財)社会安全研究財団の助成を受け、全少協と県少協との共催で、次の22都府県で実施した。

実施内容の詳細は、別紙2のとおりである。

- (1) 宮城県
日時 平成22年11月12日～23年1月26日
場所 県内4会場～①沿岸ブロック（南三陸町）②仙北ブロック（加美町）
③仙南ブロック（柴田町）④中央ブロック（仙台市）
参加者 総計321名（少年警察ボランティア275名、警察職員46名）
- (2) 秋田県
日時 平成22年6月11日～7月9日
場所 県内3会場～①県北ブロック（北秋田市）②中央ブロック（にかほ市）
③県南ブロック（大仙市）
参加者 総計333名（少年警察ボランティア275名、警察職員58名）
- (3) 山形県
日時 平成22年9月12日
場所 全県規模（山形市）
参加者 総計155名（少年警察ボランティア104名、警察職員等51名）
- (4) 福島県
日時 平成22年10月26日～23年3月5日
場所 県内13会場～①福島4地区（郡山市）②会津6地区（会津若松市）
③いわき3地区（いわき市）④富岡・浪江2地区（須賀川市）⑤～⑬
その他9地区（郡山、郡山北、本宮、須賀川、白川、石川、東石川、
田村、南相馬・相馬）
参加者 総計491名（少年警察ボランティア396名、警察職員等95名）
- (5) 東京都
日時 平成22年10月5日～23年2月4日
場所 都内8会場～①大森センター（中央区）②世田谷センター（世田谷区）
③新宿センター（新宿区）④巣鴨センター（豊島区）⑤台東センター
（台東区）⑥江戸川センター（江戸川区）⑦立川センター（立川市）⑧
八王子センター（八王子市）
参加者 総計994名（少年警察ボランティア898名、警察職員等96名）
- (6) 茨城県
日時 平成22年11月16日
場所 全県規模（小美玉市）
参加者 総計383名（少年警察ボランティア343名、警察職員等40名）
- (7) 群馬県
日時 平成22年10月28日
場所 全県規模（前橋市）
参加者 総計390名（少年警察ボランティア330名、警察職員等60名）

- (8) 千葉県
日時 平成23年1月27日
場所 全県規模(千葉市)
参加者 総計404名(少年警察ボランティア297名、大学生ボランティア10名、警察職員等97名)
- (9) 神奈川県
日時 平成22年7月11日～23年2月21日
場所 全県規模(県警本部)及び県内10会場～①横浜第一②横浜第二③横浜第三④横浜第四⑤川崎⑥三浦⑦湘南⑧県西⑨県央⑩相模原
参加者 総計1,156名(少年警察ボランティア1,013名、警察職員143名)
- (10) 山梨県
日時 平成22年7月27日～23年1月29日
場所 全県規模2回(甲府市、甲斐市)及び県内4会場～①Aブロック(甲府市)②Bブロック(長坂町)③Cブロック(南アルプス市)④Eブロック(富士吉田市)
参加者 総計714名(少年警察ボランティア等633名、警察職員81名)
- (11) 福井県
日時 平成22年11月6日
場所 県内1会場～①坂井市
参加者 総計150名(少年警察ボランティア100名、警察職員等50名)
- (12) 京都府
日時 平成22年10月24日及び12月5日
場所 全府規模(京都市)及び西京大会(京都市)
参加者 総計306名(少年警察ボランティア等258名、警察職員48名)
- (13) 奈良県
日時 平成22年7月17日
場所 全県規模(橿原市)
参加者 総計612名(少年警察ボランティア388名、警察職員等67名、その他ボランティア43名、関係機関72名、一般県民42名)
- (14) 和歌山県
日時 平成22年11月12日
場所 全県規模(和歌山市、白浜町)
参加者 総計116名(少年警察ボランティア89名、警察職員等27名)
- (15) 鳥取県
日時 平成22年11月27日
場所 全県規模(県警本部)

参加者 総計129名（少年警察ボランティア104名、警察職員25名）

(16) 広島県

日時 平成22年10月23日及び30日

場所 県内2会場～①東部地区（尾道市）②西部地区（広島市・警察学校）

参加者 総計290名（少年警察ボランティア250名、警察職員40名）

(17) 香川県

日時 平成22年11月11日

場所 全県規模（高松市）

参加者 総計130名（少年警察ボランティア110名、警察職員20名）

(18) 愛媛県

日時 平成22年11月5日～12月14日

場所 県内3会場～①東予地区（新居浜市）②中予地区（松山市）③南予地区（西予市）

参加者 総計214名（少年警察ボランティア175名、警察職員39名）

(19) 長崎県

日時 平成22年11月20日及び11月27日

場所 県内2会場～①県央地区（大村市）②長崎地区（長崎市）

参加者 総計193名（少年警察ボランティア180名、警察職員・学生ボランティア等13名）

(20) 熊本県

日時 平成22年10月6日～11月4日

場所 県内7会場～①菊池・御船地区（大津町）②球磨・芦北地区（人吉市）

③熊本地区（熊本市）④阿蘇地区（阿蘇市）⑤天草地区（天草市）⑥城北地区（玉名市）⑦宇城・八代地区（宇城市）

参加者 総計392名（少年警察ボランティア363名、警察職員29名）

(21) 宮崎県

日時 平成22年12月4日

場所 全県規模（高鍋町）

参加者 総計182名（少年警察ボランティア54名、警察職員13名、教育関係者・PTA等115名）

(22) 鹿児島県

日時 平成22年11月20日

場所 全県規模（鹿児島市）

参加者 総計200名（少年警察ボランティア100名、警察職員40名、中学生・保護者60名）

2 全国少年警察ボランティア・ニューリーダー研修会の実施

【ホームページ及びみちびき 122 号に掲載】

少年警察ボランティアの地域における自主的な非行防止・健全育成活動をより活性化し効果的に行うため、それぞれの地域において、将来指導的立場に立ち、或いは活動の中心的な存在としての役割を期待されている少年警察ボランティアを対象として、リーダーとしての意識を喚起し、必要な知識等を研修させるため、集合研修を実施した。

本年度は、平成23年2月7日（月）東京・グランドアーク半蔵門において、「第17回全国少年警察ボランティア・ニューリーダー研修会」を、(財)社会安全研究財団の助成を受けて開催した。

- ◇ あいさつ 山田 晋作 (社) 全国少年警察ボランティア協会理事長
- ◇ 来賓挨拶 早川 治 警察庁生活安全局少年課長
- ◇ 講演
「立ち直り支援に求められるもの」
石橋 昭良 氏 (文教大学人間科学部准教授)
- ◇ 講話
「非行少年を生まない社会づくりのための警察の取り組み」
新家 勝昭 氏 (警察庁生活安全局少年課課長補佐)
- ◇ 活動 (体験) 事例発表及び意見交換
テーマ「子どもたちの立ち直り支援」
- ◇ パネルディスカッション (第1部)
コーディネーター石橋 昭良 氏
 - ① 「少年警察ボランティアによる立ち直り支援、健全育成、居場所づくり活動」
秋田県：佐藤 久美子 (秋田県少年保護育成委員連絡協議会監事)
 - ② 「インターネットを介して少年たちと向き合って」
静岡県：今田 誠人 (静岡県細江警察署少年警察協助力連絡会会長)
 - ③ 「信じ続ければ子どもたちは応えてくれる」
福岡県：野口 義弘 (福岡県小倉南警察署少年補導員)
- ◇ パネルディスカッション (第2部)
 - ① ディスカッション
 - ② 質疑応答
 - ③ コーディネーターまとめ
- ◇ 閉会挨拶 加藤 浩志 (社) 全国少年警察ボランティア協会副理事長
- ◇ 参加者 少年警察ボランティア 70名
都道府県少協事務局担当者等 42名
全少協…山田理事長、加藤副理事長、勝俣事務局長ほか
警察庁…早川少年課長、西嶋少年課係長

3 地域少年警察ボランティア連絡協議会カンファレンスの開催

【ホームページ及びみちびき 120・121・122 号に掲載】

少年警察ボランティア活動を活性化し効果的に行うのに資するため、地域少年警察ボランティア連絡協議会（以下「地域少協」と略称する。）が地域少協単位で、管内の都道府県少年警察ボランティアが参加して、広域研修を行うのを助成するものである。

本年度は、次の各地域少協において開催し、講演、事例発表、情報交換、課題協議等を行った。

なお、開催状況の詳細は、別紙3のとおりである。

(1) 北海道

- ◇ 開催日時 平成22年11月4日(木)午後3時30分～同5時30分
- ◇ 開催場所 札幌市中央区 KKR ホテル札幌
- ◇ 開催内容 講演及び活動事例発表
- ◇ 参加者 合計 118名
少年補導員 99名 警察職員（道警本部・方面本部）19名

(2) 関東地域

- ◇ 開催日時 平成22年11月26日(金)午後3時50分～同5時20分
- ◇ 開催場所 東京都中央区 八重洲富士屋ホテル
- ◇ 開催内容 講演
- ◇ 参加者 合計 79名
関東管区警察局広域調整第一課長以下 2名 警視庁少年育成課課長以下 5名
地域内各都県協議会等会長 11名 地域内各都県警少年課担当職員 13名
東京協議会連絡責任者又は代表者 46名 全少協理事長及び事務局長 2名

(3) 中部地域

- ◇ 開催日時 平成23年1月26日(水)午前10時00分～午後0時00分
- ◇ 開催場所 名古屋市中区 中部管区警察局・会議室
- ◇ 開催内容 各県少協の活動事例紹介
- ◇ 参加者 合計 17名
中部管区警察局広域調整第一課長以下 2名 地域内各県協議会会長等 9名
地域内各県警少年課担当職員 6名

(4) 近畿地域

- ◇ 開催日時 平成22年6月11日(金)午後2時00分～午後5時00分
- ◇ 開催場所 大阪市中央区 ホテルプリムローズ大阪
- ◇ 開催内容 講演

- ◇ 参加者 合計 59名
 - 近畿管区警察局広域調整部長以下 7名
 - 地域内各府県協議会等会長・少年補導員等 40名
 - 地域内各府県警少年課担当職員・少年サポートセンター職員 12名
- (5) 四国地域
 - ◇ 開催日時 平成22年6月24日(木) 午後2時30分～午後4時30分
 - ◇ 開催場所 高知市 高知県警察本部・講堂
 - ◇ 開催内容 講演、事例発表
 - ◇ 参加者 合計 65名
 - 四国管区警察局広域調整第一課長以下 4名 地域内各府県協議会等会長・少年警察ボランティア及び少年サポートセンター職員 30名
 - 地域連絡協議会職員 3名 高知県警生活安全部参事官以下 10名
 - 高知県警警察署員 15名 高知県学校関係者 3名
- (6) 九州地域
 - ◇ 開催日時 平成22年7月7日(金) 午後2時00分～午後6時15分
 - ◇ 開催場所 那覇市 サザンプラザ海邦
 - ◇ 開催内容 講演及び取組・活動状況発表
 - ◇ 参加者 合計 61名
 - 九州管区警察局広域調整第一課長以下、地域内各府県協議会等会長・少年補導員、地域連絡協議会職員、地域内各府県警少年課担当職員・少年サポートセンター職員、沖縄県警少年課長・少年サポートセンター長・少年補導員、全少協理事長・事務局長

4 少年警察ボランティア研修教材等の作成

少年警察ボランティア（主に街頭補導に当たる少年補導員・少年指導委員）に委嘱された方々が、少年補導はどのようにすればよいのかを読んで学び、実践で活用できる教材・資料として活かせるために、その要領等を具体的に解説した手引きを作成した。

表題は、「少年補導の手引き」～さしのべる 手のぬくもりを どの子にも～とし、58,000部を作成して都道府県少協の少年警察ボランティアへ配布した。

第3 顕彰事業

【ホームページ及びみちびき119号に掲載】

多年にわたって、少年非行防止や健全育成のための活動に尽力された少年警察ボラ

ンティアの功労を顕彰して労苦に報いるとともに、少年警察ボランティア全体の士気の高揚に資するために、警察庁及び全少協の各表彰規程に基づき、功労のあった個人及び団体の表彰を行った。

本年度は、平成22年6月10日（木）、東京都港区の明治記念館において表彰式を行い、栄誉金章及び団体表彰を授与した。

また、栄誉銀章及び栄誉銅章は、県少協の表彰式等において伝達を行った。

栄誉金章及び団体表彰の受賞者は、以下のとおりである。

◇ 少年補導功労者栄誉金章受章者

(警察庁長官・全少協会長連名表彰) 47名

金谷 勝秀 (北海道・地区副会長)	南 重 (北海道・道協副会長)
堀江 一男 (宮城県・地区会長)	佐々木康浩 (秋田県・地区会長)
佐藤 勝三 (山形県・地区理事)	植田 昭男 (福島県・地区顧問)
加藤 浩志 (東京都・都協会長)	立野 つね (東京都・地区会計)
鹿志村吉信 (茨城県・地区会長)	大美賀一志 (栃木県・地区相談役)
蟻坂 是心 (群馬県・地区会長)	國島ヤス子 (埼玉県・地区参与)
白濱 哲夫 (千葉県・地区会員)	徳江 傳三 (神奈川県・元地区会長)
山田 泰介 (新潟県・地区会長)	横山 裕行 (長野県・県協会長)
田辺 忠男 (静岡県・地区副会長)	中村 直喜 (静岡県・地区副会長)
土合 保夫 (富山県・元地区会長)	高橋 道乎 (石川県・元地区会長)
小柳 博俊 (福井県・地区会長)	中垣 厚美 (岐阜県・地区委員)
後藤康次郎 (愛知県・地区副会長)	上田 武夫 (三重県・県協会長)
奥井三喜男 (京都府・地区副会長)	村井 信夫 (京都府・地区会長)
鴨河 澄子 (大阪府・地区副会長)	札野 成和 (大阪府・地区会長)
浦 二郎 (兵庫県・元地区会長)	西向 正久 (奈良県・地区会長)
藤本 正行 (和歌山県・地区会計)	田中 寛一 (鳥取県・地区会長)
澤江 秀夫 (島根県・地区監事)	辻 正子 (岡山県・地区副会長)
國吉 英次 (山口県・地区会長)	西淵 淳一 (徳島県・地区会長)
上砂 正義 (香川県・地区会長)	黒岩 幸男 (高知県・元地区会長)
鐘ヶ江保男 (福岡県・地区支部長)	代 一二三 (福岡県・地区顧問)
中村 勝利 (福岡県・地区会長)	宮崎 英勝 (佐賀県・地区副会長)
白川洋一朗 (長崎県・地区会長)	荒木 繁徳 (熊本県・元地区会長)
藤丸 利光 (大分県・地区会長)	萩之内弘三 (鹿児島県・地区会員)
崎浜 秀進 (沖縄県・地区会長)	

◇ 少年補導功労団体表彰受賞団体

(警察庁長官・全少協会長連名表彰) 10団体

函館西警察署少年補導員連絡協議会 (北海道・代表 福原 義正)

気仙沼地区少年補導員協会（宮城県・代表 伊藤 克人）
新宿少年センター少年補導員等連絡協議会（東京都・代表 加藤 浩志）
伊勢崎地区少年補導員連絡会（群馬県・代表 細野 勝）
大宮警察署少年非行防止ボランティア連絡会（埼玉県・代表 中村 俊一）
西尾幡豆地区少年補導委員会（愛知県・代表 杉浦 澄雄）
尼崎北少年補導員連絡協議会（兵庫県・代表 池尻 信行）
出雲警察署管内少年補導委員連絡会出雲支部西地区（島根県・代表 岸 忠男）
阿波少年補導協助力会（徳島県・代表 矢部 嘉治）
久留米警察署少年補導員連絡会（福岡県・代表 持地 俊勝）

- ◇ 少年補導功労者荣誉銀章受章者
（警察庁長官・全少協会長連名表彰） 94名
- ◇ 少年補導功労者荣誉銅章受章者
（全少協会長表彰） 188名

第4 その他の事業

- 1 関係機関・団体が行う以下の各運動に対して、協力を行った。
 - (1) 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動（6月：厚生労働省、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター主催）
 - (2) 青少年の非行問題に取り組む全国強調月間（7月：内閣府主唱）
 - (3) 第60回社会を明るくする運動（7月：法務省主唱）
 - (4) 平成22年度全国地域安全運動（10月：(財)全国防犯協会連合会、警察庁主唱）
 - (5) 平成22年全国暴力追放運動中央大会（11月：全国暴力追放運動推進センター、警察庁等主催）
 - (6) 平成22年度青少年健全育成月間（11月：内閣府主唱）
- 2 少年警察ボランティア団体総合補償保険への加入促進

少年警察ボランティアが、その活動に関して、負傷若しくは死亡し、又は他人に損害を与えた場合の補償のため、少年警察ボランティア団体総合補償保険（引受保険会社6社、幹事会社／株式会社損害保険ジャパン）への加入を斡旋した。

B 協会事務等

第1 会議の開催

1 総会

- (1) 平成22年6月10日(木)に、東京・明治記念館において、平成22年度第1回通常総会を開催し、正会員である47都道府県少年警察ボランティア協会等会長47名(うち代理出席者5名、委任状提出者2名)が出席して、第1号議案「平成21年度事業報告について」及び第2号議案「平成21年度収支計算書及び財務諸表について」を審議して議決承認を得た。

第3号議案「理事の選任について」では、須藤哲夫、野々山密雄の2名が理事に新任された。

第4号議案「新制度に基づく公益法人への移行申請の準備について」を承認した。

- (2) 平成23年1月17日(月)に東京・グランドアーク半蔵門において、臨時総会を開催し、正会員である47都道府県少年警察ボランティア協会等会長47名(うち書面表決状提出者11名、委任状提出者23名)が出席して、第1号議案「理事の選任について」では、遠山敦子が理事として新任された。

第2号議案「定款の一部改正について」及び第3号議案「役員等の報酬の支給及び費用の支弁に関する規程の一部改正について」を審議して、議決承認した。

第4号議案「公益社団法人への移行認定の申請について」を承認した。

- (3) 東日本大震災発生のため延期していた第2回総会は、平成23年4月15日(金)に東京・グランドアーク半蔵門において開催し、正会員である47都道府県少年警察ボランティア協会等会長47名(うち書面表決状提出者9名、委任状提出者29名)が出席して、第1号議案「平成23年度事業計画(案)について」及び第2号議案「平成23年度収支予算(案)について」を審議して議決承認し、第3号議案「平成23年度社団法人全国少年警察ボランティア協会決議(案)について」を審議して議決採択した。

2 理事会

- (1) 平成22年6月10日(木)に東京・明治記念館において、平成22年度第1回理事会を開催し、理事14名(うち委任状提出者2名)及び監事2名が出席して、議案「平成22年度第1回通常総会に提出する議案について」を審議して議

決承認した。

- (2) 平成23年1月17日(月)に東京・グランドアーク半蔵門において、第2回理事会を開催し、理事14名(うち委任状提出者1名)及び監事1名が出席して、議案「臨時総会に提出する議案について」を審議して議決承認した。

審査事項「賛助会員の入会について」は、飯田一夫及び飯田和美の2氏が賛助会員として承認された。

- (3) 東日本大震災発生のため延期していた第3回理事会は、平成23年4月15日(金)に東京・グランドアーク半蔵門において開催し、理事15名(うち書面表決状提出者4名、委任状提出者3名)及び監事1名が出席して、議案「平成22年度第2回総会に提出する議案について」を審議して議決承認した。

第2 機関紙「みちびき」の発行

全少協機関紙「みちびき」を、年4回(平成22年4月に第118号、7月に第119号、10月に第120号、平成23年1月に第121号)発行した。

1回の発行部数は、概ね4万部であるが、全少協を組織している少年警察ボランティアの総数に達しておらず、組織人員の約6万部を目標に努力している。